

会 報

2015年3月15日発行

静岡県技術士協会・公益社団法人日本技術士会 中部本部 静岡県技術士会
事務連絡担当 山之上 誠 Phone 054-368-7088 / FAX 054-368-7088 E-mail yamanoue@ka.tnc.ne.jp
会長：岡井 政彦 専務理事：山之上 誠 会計：松本 亨 会報担当：關 尚彦・柴田 達哉
会計振込先：静岡銀行磐田支店 支店番号 321 普通 0980271 静岡県技術士協会（会計 松本 亨）

再開された日中友好活動の報告

2014年11月に安倍首相と周近平国家主席による日中首脳会談が三年ぶりに行われ、尖閣問題から凍り付いたように停止した両国間の関係に雪解けがみられ、その一片であるかのように静岡県と浙江省との交流が復活し始めました。その活動再開の報告書として、第3回例会で報告された森会員と宮野会員からの「浙江省科学技術成果展示会とセミナー参加及び企業診断に参加して」レポート及び2015年1月の岡井会長他3会員による「専門家派遣調査」の訪中報告を掲載します。

1. 浙江省科学技術成果展示会とセミナー参加及び企業診断に参加して

森一明(機械部門・経営工学)会員

宮野正克(経営工学)会員

静岡県日中友好協議会の依頼で平成24年12月7日～9日に中国浙江省の浙江科学技術大市場のオープン記念の成果展示会に招かれ、セミナー講演及び企業診断に参加しました。

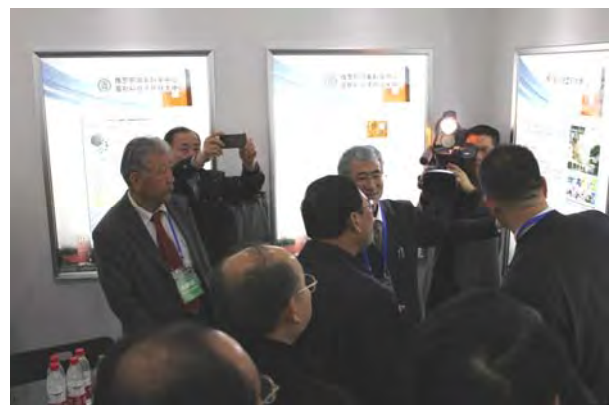
展示内容の会場と内容：バイオ、機械、電子、情報4区分12分野にわたり国内の展示200点が展示され、海外からはロシア、ドイツ、イギリス及び日本など八カ国の参加ブースがありました。また、セミナー室では、宮野会員の講演が行われ、省内企業のトップ約200名の方

が参加聴講されていました。

中国はGNPで日本を抜き、世界第二位に躍進していますが、とりわけ浙江省は静岡県の人口と比べると遙かに多く、杭州市においては、日本の東京都の匹敵するほどである。

浙江省の科学技術庁は、企業を手厚く指導する体制が整った組織であり、日本の経済産業省にあたる機関との印象がありました。

富春江水电設備有限公司、新発現機械有限公司(紙コップ自動組み立て機械の設計企業)及び浙江比例包装有限公司(梱包企業)企業訪問を行いました。特に浙江比例包装有限公司は、ユーザーへの提案型企業であり、世界のリーディングカンパニーを目指しており、日本の企業と同等の力を持っている印象を受けました(森会員報告)。



平均的には日本企業の方が進んでいるが、中国は人口も多く、企業数も多いので日本製品を駆逐してゆく企業もあるかと思う。日中交流は、価値があり良いことであるが、何を中国の企業が我々に求めているかというポイントを把握すること。また、無償での技術提供ではなく、報酬の伴う指導ができる技術は何であるかという両方の視点が必要と思われ、質のある友好交流がうまく成立したらよいと思う(宮野会員報告)。

2. 専門家派遣調査の報告

岡井政彦(電気・電子)会長

このたび、静岡県・浙江省経済交流促進機構の「中国国際分業調査事業」の一環として、「対中ビジネス協力・専門家(技術アドバイザー等)派遣の可能性」をテーマに、浙江省科学技術庁等を中心に、訪中調査を実施しました。この調査団は静岡県日中友好協議会(会長川勝知事)の要請を受けて実施されたもので、静岡県技術士協会からは、岡井、小嶋、井辺の3名が参加しました。目的は、浙江省の公的関係機関及び省内の各中小企業からの日本の技術者に対するニーズと日本から中国への専門家派遣の可能性等を調査し、これからの対中国(浙江省)との実質的な交流が着実に進むよう、対中ビジネスの更なる発展と今後の可能性調査です。

知られているように、静岡県と中国浙江省は1982年に友好提携協定を結んで以来、経済・文化面での交流を30年余の長きにわたって継続しています。特に科学や工学技術面での当技術士協会の貢献は、清水康夫会員、佐藤仁一会員、宮野正克会員、森一明会員たちが、従来から中国産業界と浙江省科学技術庁で各種技術講演などを実施してきたことです。このたびの訪中調査では、これらの諸会員による中国との技術交流を礎に、さらに静岡県技術者と浙江省

の中小企業指導関係を深度化することを目的としております。

今回訪問した先々では、熱烈歓迎を受け、日本に対する浙江省内の各方面からの強い期待を感じました。このたびの調査と交流に基づいて実質的な交流が次の段階へ着実に進むよう、静岡県技術士協会も日中友好協議会、中小企業診断士協会等の関係団体と連携をとりながら、静岡県と浙江省の友好発展をお手伝いできればと思っています。

調査団長 岡井政彦

団員 小嶋克美

井辺博光

小川裕史(中小企業診断士協会)

高林久記(静岡県日中友好協議会)

今回の訪問先:

- ・浙江省嘉興市科技局(嘉興市下の企業指導)
- ・浙江省科学技術庁、浙江省対外科学技術交流センター(科学技術開発の政策)
- ・浙江省経済和信息化委員会(省内中小企業指導委員会)
- ・浙江省外国専門家局(技術者受け入れの省政府窓口)
- ・浙江鑫江鍛造有限公司訪問(鍛造メーカー本社)
- ・浙江泰隆商業銀行訪問(銀行)

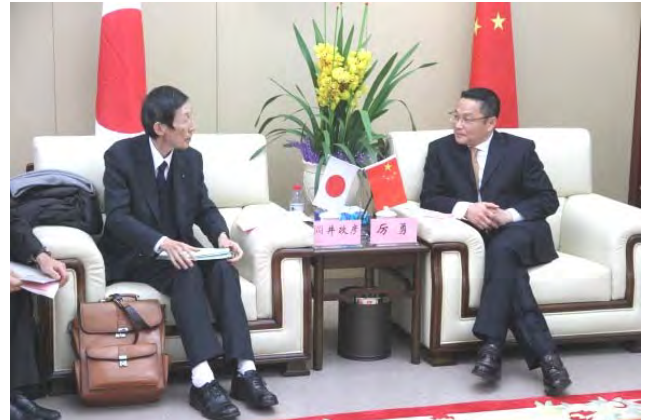


調査団

右側奥から高林久記(静岡県日中友好協議会) 岡井政彦(協会) 小嶋克美(協会) 井辺博光(協会) 小川裕史(中小企業診断士協会): 浙江省嘉興市科技局にて



浙江省科学技術庁 成副局長、王主任、張副主任等



浙江省外国專家局の厲（り）局長と対談

2014年度 第3回 CPD 例会報告

開催日：2014年 12月 20日

文責：広報担当 柴田 達哉

1. 「最近の橋梁を取り巻く環境～国内 外の調査報告を交えて」

（一社）日本建設機械施工協会

施工技術総合研究所 部長 谷倉 泉

a) 日本の建設経済環境

日本経済は、2000年のリーマンショックで落ちこんだで以来、最近のアベノミクスで持ち直している。内閣府の資料では、日本経済は回復基調にあり、国交省の予算でも5兆円前後+復興費と補正予算で約6兆円を超える投資額が期待され、昨年度より数%上乗せされている状況である。この予算配分のポイントは、災害対策復旧とインフラの老朽化対策におかれ、構造物のメンテナンスをどのように行うかが大きなテーマとなっている。

しかし、建設コストは、材木等材料費が高くなってきており、東日本大震災の復興と従事者高齢化の影響で鉄筋工や型枠工の市場単価が上昇していることに特徴がある。また、建設従事労働者が減ってきておりピーク時の7割に

なっており、少子高齢化の影響で若年層が減ってきている人手不足の問題点もある。

b) 日本のおかれている橋梁点検の現状

橋梁劣化の事例として、以下に整理される。

- ・コンクリート中の鋼材が腐食してコンクリートの剥離による剥落事故
- ・コンクリート骨材中に塩分による鉄筋の腐食が進行して大きな補修または、架け替える。
 - ・中性化（炭酸ガスがコンクリート中に入りPHを下げる）による鉄筋の腐食に起因した剥離す。
 - ・アルカリ骨材反応による膨張による亀甲状のひび割れが発生し、被害が大きい。
 - ・床版は、ひび割れが起こると炭酸カルシウムを溶出し、橋に穴が空き、自動車の走行に支障が出る。

一方で、海外では、スイスガンパー橋の塩害、フランスのアーチ橋、スウェーデンの複合（塩、凍害）劣化事例、他のヨーロッパ各国で塩分の付着した橋脚の劣化事例を紹介された。

点検・診断を行い、保守・補強対策を実施す

る。そして、追跡調査によりフィードバックさせることで技術が確立されるが、あまりにも対応すべきテーマが多すぎ合理的かつ広域的に実施しなければならないのが現状である。

国土交通省では、今後の橋梁維持管理の動向を予測しているが、点検維持の必要性が急速に高くなる対象の 75%が市町村橋にある。その頻度を考えれば、人手不足が予想され、合理的



な方法として、ロボット化や画像撮影解読などの取り組みが提言されている。点検診断、措置、記録を確実に行うことができるように、予算、体制、技術及び国民のコンセンサスを得て、このマネジメントサイクルを実施することが考えられている。

アセットマネジメントの観点では、初期の頃に実施すれば、少ない費用で実施できるが、時間が経つと非常に大きくなるので、早いうちの手当が重要である。

c). SIP を取り巻くイノベーション

SIP (Strategic Innovation Promotion Program) とは、安倍首相が「世界一を目指すため、イノベーションが大事だ。」として、閣議決定した国家戦略のひとつです。府省の枠や旧来の分野の枠を超えたマネジメントに主導的な役割を果たすことを通じて、科学技術イノベーションを実現するために新たに創設するプログラムです。

5年間で500億円を確保され、実施体制は、各分野でプログラムディレクター(以下 PD)を任命し、関係省庁をすべて束ね、諮問委員会の諮問を受けながら進めてゆきます。

その中で、インフラ維持管理・更新・マネジメント技術分野は、厳しい財政状況や熟練技術者の減少という状況において、事故を未然に防ぎ、予防保全によるインフラのライフサイクルコストの最小化を実現するためには、新技術を活用しシステム化されたインフラマネジメントが必須とされている。

特に橋梁床版長期高耐久化の研究を行うなど重点目標に挙げられ、ロボット化をひとつの対策として考えられている。日本建設機械施工協会も50周年記念の研究で土木研究所と橋梁調査会の三者でこれから維持管理ロボット化などに取り組む予定である。

この床版の点検業務費用は、今後は数十～百兆円になるだろうといわれ、点検から補修技術に将来的にビジネスチャンスの期待がある。

d). 海外の最近の事情 (アメリカ, 上海)

アメリカは維持管理には先進的であり、床版を守ることができるコンクリート舗装が主流である。

アメリカでは、過重制限が徹底している点や騒音が大きいなどのマイナス面が指摘されるが国民性の差異があるが、コンクリート舗装設計法(表面に数センチのラテックス材の塗布、コンクリートかぶりの厚さ等)に大きな違いがある。そのため、耐久性が日本より高い理由となっている。また、発注者はアルカリシリカ反応によるコンクリート劣化を許容し、請負者に亀裂等が発生したときの対処を5年間保証する誓約を契約している。

その他、ステンレス使用などイニシャルコストを上げるが、維持管理費が小さくなるトータ

ルコストで選定すべきであるなどの意見を紹介した。また、アメリカで開発された維持管理ロボットは、20種の非破壊試験と評価ができることが紹介された。

2. 「ポリテクカレッジ浜松校の役割と技術士への期待

～課題山積のこれからを皆さんと考える～

厚生労働省東海職業能力開発大学校 浜松校

校長 長瀬 安信

静岡県技術士協会へ非常勤講師の紹介依頼をきっかけに今回の講演を行うことになりました。



a) 学校の紹介

愛称は「ポリテクカレッジ」といい、造語ではありますがヨーロッパの工科系大学でも使われている単語であります。全国に24カ所の拠点があり、主に高校を卒業した後に入学し、2年間の応用課程で卒業するコースとより高度な知識・技能を得る専門課程コース(4年間)もあります。

主な設置訓練科は、生産技術科、電気エネルギー制御科、電子情報技術科及び住居環境科などがありますが、浜松校は「生産技術科」、「電気エネルギー」、「電子情報技術科」があります。

学生数は、少数で全国でも定員が2,000名程度であり、浜松校においては各科20~30名程度です。歴史的には前身の国立の職業訓練校時

代から約60年ありますが、ポリテクカレッジ浜松に成ってから33年目を迎えました(卒業生は約3,000名)。学生の出身は、浜松周辺の静岡西部の方が多いのですが、愛知県内の近隣からも通っています。就職は、浜松周辺の自動車関係の部品製造業、機械製造業が多いのですが、なかには東京の大手企業に就職する学生もいます。最近の求人倍率は、年々増加しており、2014年は6.6倍となっておりますが、企業での採用は厳しくなっています。この学校の特徴として、企業や地域の各団体と協力して在職者のために技術力やスキルアップの教育もしており、過去1万人の方が利用しています。この学校は、文部科学省ではなく厚生労働省が所管していますが、企業人としての実践的な職業教育を行うという違いがあり、文部科学省の大学・短大と画している点と考えています。



b). 山積な課題

これからの日本は、難しい課題が山積している。それは、技術に対する魅力がなくなっており、技術がなければ成り立たない日本には、

技術教育をどのように行うかが大きな問題
 となっています。将来を担う若者にとっては、
 新しい山を登るようで、必要な筋肉（スキル・
 知識・技能）を鍛えるには、新しい教育モデル
 が必要に思えます。山積した課題を他の皆様にも
 協力を頂き、将来の技術者にそれぞれが養っ
 てきたこの教育を共にお願いしたい。



集合写真

2014年度 地区 CPD 例会報告

西部地区例会

日 時：2015年1月24日(土) 15:00~17:00

場 所：セレクトイン浜松駅前

参加者：森, 鈴木, 井辺, 吉田, 中田, 牧野,
 藤原, 長嶋, 池谷, 江口, 岡井

内 容：

- 「浜松イノベーションキューブについて」
 吉田建彦会員(経営・総合技術監理部門)
- 「画像式2次元座標測定器の開発・制作・販売」
 ATメトリック(株) 社長 豊田篤史氏
- 「画像処理・動画解析技術を利用したスポーツ上達
 ソーシャルネットワークワーキングサービスの開発・運営」
 (株)SPLYZA 社長 土井寛之氏



中部地区例会

日 時：2015年1月31日(土) 15:30~17:00

場 所：静岡市産学交流センターペガサート

参加者：佐藤, 村瀬, 鈴木, 岩田, 岡井, 柴田, 吉
 澤, 山之上, 關, 近藤, 池谷, 藤波, 牧田市
 会議員, 原田(日本地理コンサルタント), 大石(太洋電機)

内 容：「企業活動とCSR」

(一社) 静岡県環境資源協会 専務理事 平井一之氏



2014年度 第4回 CPD 例会報告

開催日：2015年 2月 14日

文責：広報担当 柴田 達哉

今年度の第4回例会は、静岡大学工学部（浜松市城北キャンパス）にて、高柳記念未来技術創造館の見学と静岡大学・中日新聞連携講座2014「浜松発！未来の社会」での講演会でありました。

1. 高柳記念未来技術創造館の見学

大学院情報学研究科電子工学研究所高柳記念未来技術創造館の青木教授のご案内により館内を見学しました。



本館は、旧高柳記念館を平成19年11月に耐震性の向上と太陽光による発電を備え、優れた断熱性構造を取り入れた近代的な施設として、同窓会・企業の協力を得て、リニューアルされました。1階には、産学のコミュニケーションサロンが設けられ、2階に高柳先生の研究功績、テレビジョン技術の歴史などの展示品があります。

高柳先生は、大正12年12月「イ」の字をブラウン管に映し出すことに成功しました。以後、テレビジョン技術のめざましい発展に寄与され、今日の情報社会の基礎を築いたと言っても過言はありません。



2階の展示場には、先生の研究成果のほかなつかしいテレビモニターの変遷や何でも世界一の展示コーナー、産業界で活躍する地元企業の紹介や卒業生・教員の研究成果コーナーが設けられていました。



静岡大学は、浜松ホトニクス(株)、浜松医科大学、光産業創成大学院と共に地域資源等を産学連携による国際科学イノベーション拠点整備として、光創起イノベーション研究拠点所を開設しました。

2. 光でがんを勝つ～低侵襲がん光治

講師：平川和貴

(静岡大学大学院工学研究科化学バイオ工学専攻准教授)

光線力学的療法は、障害を残さず、がんを完治させた例もある夢のような治療法です。

今後の課題もあるようですが、基礎的な光とヒト関わりから化学を使った先端研究のご紹介と説明を頂きました。

a). 光とヒト（生命）との関わり

光は、質量のないエネルギー粒として飛ぶ光子という側面と電場と地場が交互に振動する現象である電磁波という面がある。

ヒトとの関わりでは、プラス面として作用するたくさんの効用の反面、マイナスとなる面もあります。

医学的には、波長が長く、害がない赤外線を利用して、美容、精神疾患・黄疸の治療に使われています。

1. 光とヒト（生命）との関わり

- ・信号として: 視覚情報
- ・エネルギーとして: 植物の光合成、熱
- ・殺菌作用
- ・食品加工
- ・ビタミンDの合成
- ・概日リズム(生活リズム、時差ボケの解消)
- ・心身の健康
- ・地球環境の維持

- ・太陽紫外線による皮膚がん
- ・光線過敏
- ・光アレルギー
- ・視力低下
- ・地球温暖化

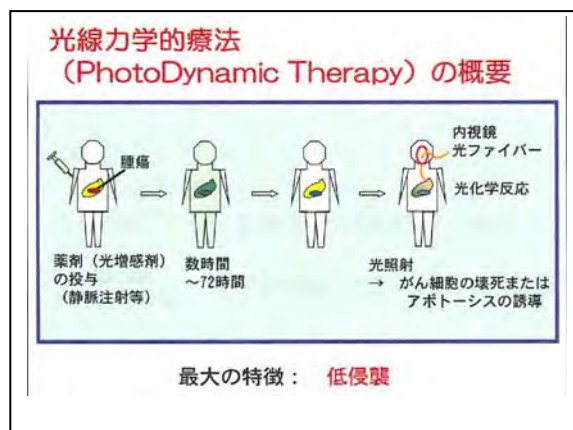
b) 光線力学的治療法の概要と意義

光線力学的療法（PhotoDynamic Therapy;以下 PDT）は、薬剤（光増感剤）を投与し、患部に光を照射し、化学反応によりがん細胞の壊死する方法です。その特徴は、なんといっても最も低侵襲であるということです。

低侵襲とは、検査・治療でできるだけ患者の身体への影響を残さない医療方法をいいます

が、低侵襲医療のレーザー・放射能照射や抗がん剤投与より PDT はこれらの課題を解決した画期的な新しい療法といえます。

その特徴としては、止血不可能でも施術可能、臓器の温存（障害が残りにくい）、麻酔不要、重篤な副作用なし、少ない施術回数また、経済的負担が少ない場合もあるという数多い利点があります。

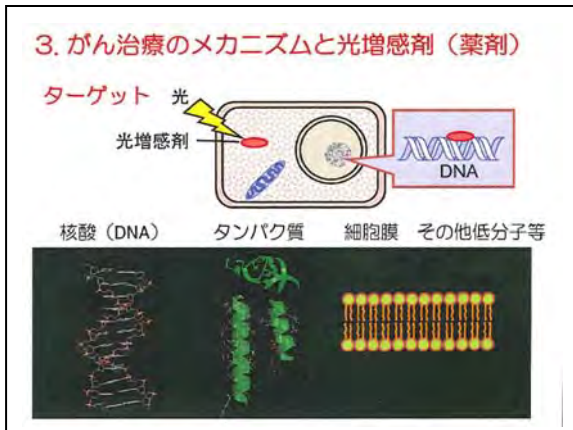


しかし、課題もあり施術後には遮光や日焼けに注意しなければならないこと、光照射が難し部位へ対応やがん細胞内の低酸素濃度問題があります。

c) メカニズム、光増感剤（薬剤）

PDTは、光増感剤に光を照射して、がん細胞の生体分子を酸化することが重要である。照射する光は、波長が長く、人体組織への浸透性





の強い可視光（赤外線）を使用する。重要なのは、酸化力が高い一重項酸素（ 1O_2 ）の利用が必要であるため、光増感剤にはそれを発生し易くことは、新しい光増感剤を開発することと分子レベルでの作用機序を解明することにある。

d) 基礎研究例

現在の研究のテーマは、がん細胞だけを選択的に攻撃できる光増感剤の開発である。

テクノロジーカフェを開催しました

新しい企画であるテクノロジーカフェを開催しました。テクノロジーカフェは、会員の持ち回りで講師を努め、一般市民向けにカフェのような雰囲気の中で技術を語り合う場所を設け、今の技術を発信する場であります。

毎回静岡市葵区の繁華街である両替町のシニアライフ支援センター「くれば」を会場にお借りして、参加費 500 円（ドリンク付き）開催しました。

第 1 回目（2015 年 1 月 15 日 木曜日）

講師：吉田建彦（経営工学・総監部門）会員
内容：「ベアリングのお話」



第 2 回目（2015 年 2 月 19 日 木曜日）

講師：柴田達哉（建設・応用理学・総監部門）会員
内容：「土砂災害のお話」



第 3 回目（2015 年 3 月 13 日 金曜日）

講師：井辺博光（上下水道・衛生工学・総監部門）会員
内容：「今、大変なことになっている水と気象のお話」



気軽な話が弾みます。今後も皆さんの「まだまだすごい日本の技術」をご紹介ください。

静岡市の災害復興協定活動と国連防災会議（2015.3.15）報告

静岡市都市計画課との「災害時における市民への復興まちづくりの助言協定」に基づく研究委員会は、静岡市有東坂地区で開かれた「復興まちづくりワークショップ」に参加しました。

ワークショップは、約3ヵ月で3回開催され、地域環境を見直すことで住民皆さんの手により被災後のまちづくりをシミュレーションする活動です。

2. ワークショップの実施概要

目的	回	時期・時間	概要	手順書との対応
復興まちづくりの必要性やプロセスへの理解を深める	1	10月1日 2時間程度	①ワークショップの趣旨説明 ②被害拡大プロセスと地域の潜在的な災害リスクの説明 ③復興まちづくりについて事例紹介と役割・手順の説明 ④生活再建意向調査の実施	手順09
まち歩きを通じて地域の災害リスクを知り、起こりうる被害を疑似体験し、地域の課題と被災後のまちづくりを共有する	2	12月初旬 4時間程度	①第1回ワークショップの報告 ②まち歩きの実施 ③課題マップの作成 ④生活再建に向けた課題の整理	手順06 手順07 手順08 手順10
復興まちづくり提案書を作成し、復興まちづくりの方向性を共有する	3	2月初旬 2時間程度	①第2回ワークショップの報告 ②復興まちづくり提案書の作成 ③発表会の開催	手順06 手順12 手順13



このようなこれまでの復興まちづくり活動の報告を第3回国連防災会議にて、關尚彦（建設部門）会員が発表いたしました。

日 程：2015年3月14日～18日

会 場：仙台国際センター等

主 催：国際連合

参加者：国連加盟国、国際機関、NGO、政

府関係者など約5,000人。

關会員の発表は、3月17日ガーデンシティ仙台にて「巨大化する自然災害に備える技術者の役割」という「公益社団法人日本技術士会」主催のプログラムで行われました。



5. 技術士会のミッション

技術士会として期待されることは復興計画策定にあたり、専門性、中立性、公平性を持った相談役としてまちづくり協議会に参画する。それを果たすため3つのミッションを掲げた。

- ① 技術士に要求される役割を認識し、災害時の要請に応じるためのマンパワーを充実しておく。
- ② 一市民、一技術者として十分な備えをしておくため、学習会による知識の蓄積。
- ③ 関連する他の組織、団体との連携・情報共有を行い時流を的確につかめる体制づくりをする。

8. 今後の課題

- ・ 地区によって予想される災害の被災形態や規模も様々で、復興に際しての意識も地区によって大きく異なることが予想される。ワークショップ等の取組みを通じて様々な状況に応じた対応の方法を蓄積していくことが重要である。
- ・ 住宅再建や防災対策のハード面だけでなく、阪神淡路や東日本の震災後の復興課程で課題となった地域コミュニティの形成など、ソフト面に配慮したまちづくりのアドバイスができるよう、平常時から知識や情報のスキルアップをして行く必要がある。

2015 年度理事会からの挨拶

2015 年度から、正式に静岡県技術士協会は「解散」し、「公益社団法人日本技術士会中部本部静岡県支部」としてその歩みを開始します。静岡県技術士協会は発足から 50 年間経過しましたが、諸先輩の方々が築いてこられた伝統の重みを感じます。当会は新しく支部として名前は変わりますが、今までの静岡県技術士協会の実績と現所属会員の力を最大限活かして、技術士としての諸活動を引き継いでいく所存であります。これに合わせて、2015 年度からは日本技術士会会費とは別枠で集めておりました個人会費の徴収は停止し、例会案内は基本的にメールとホームページのみ、また会報は同様にメール等による電子配布（賛助会員は郵送）を原則として運営経費の節約に努めます。

支部発足に合わせて、支部の会員数は 170 名近くに大きく増えます。今後はこの増えた支部の会員に向けて、例会活動の活性化を大きく進めていく必要があるかと考えます。一方、静岡市との「災害時における市民への復興まちづくりの助言に関する協定書」などの技術士協会として結んでいる各種団体との協定については、引き続き支部の基本活動として継続して参ります。

なお今後の大きな会合として、以下の 2 つを予定しております。

- | | | |
|-----------------|--------|-----------------------------|
| ・ 4 月 18 日（土曜日） | 13:30～ | 於：クーポール会館 |
| | | 静岡県技術士協会 2014 年度活動・決算報告 |
| | | 静岡県支部発足準備記念式 |
| ・ 8 月～9 月頃予定 | | 静岡県技術士協会 50 周年記念集会 |
| | | 公益社団法人日本技術士会中部本部静岡県支部設立記念式典 |

※時期が迫りましたら、この 2 つの会合については郵送で案内を送付いたします。

編集後記

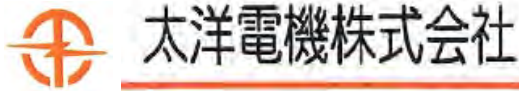
暦の上では、春の気分ではありますが、季節の変わり目の寒暖差が激しく、体調管理に苦勞する毎日です。また、花粉症の季節でもあり、多くの方が悩まされているようですが、最近の良い薬も出回っているようで、ティッシュ片手の赤鼻も少なくなってきたと感じております。

本号をもってこれまでの紙媒体としての会報は、最終号となります。今年度の後半期もたくさんの活動があり、会員の方ご報告しなければならないことが多く、お手元に届くのが遅れてしまい、申し訳ありませんでした。二年間会報編集を担当しましたが、皆様の日頃の技術活動や見識を発表する機会や紙面を確保することができず、反省しております。あらためて過去の先輩担当者方々へのご苦勞やご尽力に敬意を示すと共に拙い文章に対して皆様からご支援・ご指導を頂きまして、この場をお借りして礼を申し上げます。来年度からは新しく静岡県支部としてリスタートしますが、会報はメール配信で電子媒体として継続します。なお、賛助会員の皆様には従来通り紙媒体での配布をさせていただきますが、今後ともご支援をお願いいたします。

(会報担当：柴田 達哉、關 尚彦)

賛助会員 企業紹介

長年、静岡県技術士協会の発展に貢献して頂いている賛助会員様に感謝の意を表し、企業紹介をさせていただきます。(順不同)



太洋電機株式会社

弊社は、お陰様で創業 60 周年を経ております。社是・社訓・社歌を毎朝の朝週で唱和し、開発の精神の昂揚と無事故・無災害に努めております。お陰様で中部電力(株)の社長表彰を 4 回受賞し、36 年間無事故・無災害を継続中でございます。創業社長の岡部は、静岡県技術士協会設立に係りましたが、開発の精神を社風にしたい思いが現在の太洋電機に浸透して社会貢献が出来る会社に育ってきていると思います。地域に密着して安全に更に努力する会社を目指します。

代表取締役会長 大石 敏男

環境問題が「人類最大の課題である」という国の方針に賛同し、エコアクション21の認証登録事業所として活動しています。また、静岡市と協働してストップ温暖化にも取り組んでいます。



- < 創 業 > 昭和 27 年 8 月 27 日
- < 資本金 > 2,000 万円
- < 業 務 > 一般内線工事、発変電、送電、地中線、光通信工事
アズビル(株)製品販売取扱店
空調設備工事
- < 主要取引先 > 官庁全般、電力会社



本 社 〒420-0813 静岡市葵区長沼三丁目1-24
TEL(054)261-5356 FAX(054)261-5352
E-mail : taiyoudk@mars.plala.or.jp
URL : http://www.taiyodk.jp/
当社は静岡市と協働してストップ温暖化に取り組んでいます



We walk together 昭和設計株式会社

弊社は、地域社会とともに歩みつづけ、地域社会とともに成長してまいりました。

これからも、技術をもって社会に奉仕し、顧客の皆様により高度なサービスをご提供できるように精進してまいります。

代表取締役社長 山村 卓道

- < 創 業 > 昭和 25 年 6 月 1 日
- < 資本金 > 3,000 万円
- < 業 務 > 建設コンサルト、測量調査、補償調査
一級建築士事務所
< 技術士 > 15 名 (建設部門)

〒420-0882 静岡市葵区安東 2 丁目 15 番 13 号
TEL(054)245-6012 FAX(054)247-6634
URL: http://www.shizuoka-showa.co.jp
< 事務所 > 東部、中部、西部
< 営業所 > 沼津、磐田、浜松

おかげさまで **65** 周年



静岡コンサルタント株式会社

- < 創 業 > 昭和30年
- < 資 本 金 > 3,000万円
- < 事業内容 > 設 計 : 道路・橋梁・構造物・トンネル・河川・砂防・上下水道・港湾・
各種構造物・防災工・耐震
計 画 : 道路・橋梁・区画整理・都市計画・交通計画・景観・公園
調 査 : 測量・地質調査・補償業務・環境調査・交通量調査解析・
耐震調査解析
管 理 : 各種工事に伴う施工管理

代表取締役 森崎祐治

〒411-0804 静岡県三島市多呂128番地
TEL (055) 977-8080
FAX 055-977-8731
<http://www.shizuoka-con.co.jp/>

- < 支 店 > 静岡 浜松
- < 営業所 > 沼津 函南 伊東 伊豆の国 富士 袋井 磐田 掛川

